

## 授業アンケート実施結果

・授業評価を前期（7月）と後期（12月）に進路探求の時間を除くすべての講座で実施した。

## 1 集計人数

本校の講座受講者数（教科のみ）

文理科 講座数 119（除：進路探究）のべ受講者数 2,736 人

総合学科 講座数 164（除：進路探究，産業社会と人間）3,020 人 （合計受講者数 5,756 人）

有限母集団 3,020 人として考えれば，母比率 0.5，推定精度が 95%信頼区間を  $\pm 0.05$  として計算すると，下の式から **341** 人必要と計算される。5,756 人だと **360** 人必要。

$$\text{Finite population: } n' = \frac{n}{1 + \frac{z^2 \times \hat{p}(1-\hat{p})}{\epsilon^2 N}}$$

$z = \lambda = 1.96, \epsilon = \text{標本誤差}, N = \text{母集団}, \hat{p} = \text{回答比率}$

すなわち，文理科，総合学科，それぞれ 400 人のサンプルを取れば，統計的に全体を推測可能である。よって，無作為抽出にはならない欠点はあるものの，400 人分の回答を各教科の受講人数に合わせた割合を配分し，結果を集計した。なお，出生数のような単純な集計でなく，毎年指導者も生徒も多くが入れ替わり標本変動が大きく，さらに設問項目も変更したため，年度間比較はしない。

## 2 アンケート用紙

(1) コメントへの個別対応と回答の質保障のため記名式とした。

(2) 設問は，本校が目指す授業を生徒に示すものであるので，校訓の「自主」と，授業後にできる（わかる）ことが増えたとの意識を持たせようかを問う内容の 2 項目とした。

## 授業アンケート

令和 2 年度

科目名	年 組	番	氏名
-----	-----	---	----

1 あなたの意見にもっとも近いものを選んで，該当する数字を○で囲んでください。

④(1) 私は，当該科目の授業について，自主的に学ぶことができていた。

・	あてはまる	いくらかあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
	5	4	3	2	1
回答	.....				
理由	.....				

(2) 私は，当該科目の授業をぎっかけにして，できる（わかる）ことが増えた。

・	あてはまる	いくらかあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
	5	4	3	2	1
回答	.....				
理由	.....				

2 担当の先生から示された問いを「設問」欄に記入し，それに答えてください。

設問
【設問への回答とその理由】
.....
.....

3 担当の先生に伝えたいことがあれば自由に書いてください。

.....
-------

## 3 実施結果（設問1，設問2 回答値）

前期後期間の回答値に，統計的有意差は 見られなかった。（カイ二乗検定）

全体まとめ 前期		
回答値	設問1	
	自主的に学ぶことができていた。	
	人数	割合
5	542	40.2%
4	609	45.2%
3	146	10.8%
2	45	3.3%
1	5	0.4%
	1347	100.0%
回答値	設問2	
	できる(わかる)ことが増えた。	
	人数	割合
5	637	47.3%
4	596	44.3%
3	94	7.0%
2	16	1.2%
1	3	0.2%
	1346	100.0%

全体まとめ 後期		
回答値	設問1	
	自主的に学ぶことができていた。	
	人数	割合
5	377	43.8%
4	374	43.5%
3	84	9.8%
2	23	2.7%
1	2	0.2%
	860	100.0%
回答値	設問2	
	できる(わかる)ことが増えた。	
	人数	割合
5	413	48.2%
4	367	42.8%
3	65	7.6%
2	12	1.4%
1	0	0.0%
	857	100.0%

なし ( $X^2(4)=3.636$ , ns; *Cramer's V*=0.041)

なし ( $X^2(4)=2.693$ , ns; *Cramer's V*=0.035)

## 4 実施結果から

本校のほとんどの生徒は初めから学習に対する意識が高く、自主的に学習できていることがわかる。また、その意識は後期になっても継続していることがわかる。